

単元名 わくわく算数学習

配当時間 1時間

- 単元の目標 (1) 100の単位にすることを理解し、(何百) + (何百) や (千何百) - (何百) の計算をすることができる。
- (2) 絵や図を用いて、100の位を基に計算すれば簡単に和や差を求められることを考えることができる。
- (3) 100を単位にして計算することのよさが分かり、進んで活用しようとする。

標準的な展開例

03040101_001

【準備等】お金の模型(100円玉)

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (何百) + (何百) や (千何百) - (何百) の計算を100を単位にして計算する。[上p. 6～p. 9]</p> <p>○花束と花瓶を合わせた値段を求める問題を読み、題意を把握させる。</p> <p>★100円玉を使って、計算のしかたを考えよう。</p> <p>○$700+400$の計算の仕方を考える。</p> <p>○$1200-700$の計算の仕方を考える。</p> <p>○「練習問題」に取り組む。</p>	<p>・「合わせる」という言葉に注目させ、式を立てた後、その式でよい理由を説明させる。</p> <p>・第2学年での学習を想起させ、100が何個分になるかを考えさせる。</p> <p>【評】計算の仕方を考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。</p> <p>・計算の仕方を考えられない児童には、1000円を100円玉にくずして考えさせる。</p>

【備 考】

本単元では、3桁のたし算・ひき算の準備として何百のたし算・ひき算について考える。百を単位とした数の相対的な見方については、第2学年でも学習してきており、 $200+400$ は100が $2+4$ 、 $800-400$ は100が $8-4$ で計算できることを学習している。本単元では、たし算のひき算の筆算の準備として、100を単位にして、 $700+400$ や $1200-700$ など、繰り上がりや繰り下がりのある計算を行う。一方的に100円玉を見せて百の位同士のたし算やひき算になることを教えるのではなく、第2学年での数の相対的な見方に基づく計算を想起させ、100を単位にすれば既習の計算で解決できるということを児童自ら見いださせて、単位の考え方のよさを味わわせたい。